



ゆめ通信

2023.1.1. No.125

発行 日本養豚事業協同組合

〒104-0033 東京都中央区新川2-1-10
八重洲早川第2ビル6階

TEL.03-6262-8990 FAX.03-6262-8991

新年のごあいさつ

日本養豚事業協同組合
理事長 松村 昌雄



新年明けましておめでとうございます。昨年も長引く新型コロナウイルスへの対応に翻弄されてきましたが、総会、理事会などは状況にあわせて参集しての開催もできるようになってまいりました。セミナーは引き続きオンラインに頼らざるを得ない状況でしたが、7月には養豚業界の未来を担う若者らが全国から一同に会し「第1回若者が夢を語る会」の開催ができました。予断は許しませんが現状を鑑み今年の総会やセミナーは参集しての開催を予定しております。皆様に再びお会いできることに喜びを感じております。

昨年は過去30年の中でも最高の豚価となり、販売価格の面では良い一年となりました。一方、飼料価格は過去最高額で高止まりとより厳しい状況となり、少ないコストで利益を最大化しなければならない前例のない経営を突き付けられております。

現状は国や地方（都道府県）から手厚い支援を受けながらの経営をされている農場が多いと思いますが、いつまでも支援が続くとは限りません。7万円/トンという過去にない餌価格での経営となれば特別有利な原料が無い限り利益確保も難しくなります。今後も餌価格の動向は予断を許さない状況が続くでしょう。農場要求率の改善、1母豚当たりの出荷枝肉重量の最大化、事故率低下の追求など、経営の見直しを進める事が利益確保の一番の早道となります。従来の価格と以前の餌価格（3万円/トン）の時とで同じ経営をしては生き残れません。ベンチマーキングに参加して自農場の数字を把握することは絶

対条件となります。種豚Topigs Norsvin、メンデル精液の利用によって大きく生産成績の改善をされた農場はたくさんあります。幸い両資材共に現在供給力があります。経営努力無くして生き残りは難しくなります。一日も早くウクライナでの紛争が終結し、穀物相場が安定することを願うばかりです。

畜産統計によれば、全国の豚飼養戸数は3,590戸、頭数894.9万頭、子取り用雌豚78.9万頭と前回比4%少なく、肥育豚も751.5万頭と2%少なくなりました。豚熱による廃業などが影響していると思われますが減少傾向は続いております。

初発から4年目をむかえた豚熱は、2022年11月現在で85農場が殺処分の対象となりました。豚熱を取り巻く状況は変化してきており、農場での飼養衛生管理者によるワクチン接種が認められ、母豚免疫不安定時の追加接種などの問題も沈静化し、清浄化にむけて確実に一歩ずつ歩み始めています。

このような状況の中、本年2月に東京でセミナーを開催いたします。全国の組合員の皆様にとってこの難局を乗り越えるための一助となるよう企画しておりますので、一人でも多くの方々にご参加いただきたくお願い申し上げます。

大変な状況でも新年はやってきます。過去に無い餌高で頭の痛い年になるでしょうが、424名の組合員全員の協力を得ながら飼料、資材の安定供給に役員・事務局一丸となって取り組んでまいりますので、本年も何卒お願い致します。

第23期豚事協セミナー概要

第23期セミナーが令和4年10月13日の理事会にて承認されました。新型コロナウイルスの影響もあり計画や実行が幾度となく見送られてきましたが、23期中の支部ごとの開催は厳しいと判断し、東京にて全国の組合員に向けて開催することになりました。

現在養豚を取り巻く環境はかつてない困難の局面をむかえています。しかし、どんな時代になってもやはり養豚経営に求められる基本は変わりません。豚事協が発足より変わらず発信しております「良い豚・良い餌・良い管理」が重要な観点だと考えます。またその指標としてベンチマーキングの重要性は限りなく高いと判断しております。

今回のセミナーでは3名の方々にご講演いただくことになりました。講演者①株式会社九郎兵衛高橋将司氏は団地全体での疾病が多く管理のコントロールが難しく、やまびこ会で20年続くベンチマーキングに参加されていますが、そこで出される指標も豚熱前は厳しい内容でした。しかし、団地全体での豚熱感染による全頭殺処分によって、いみじくも完全なオールアウトを余儀なくされ、疾病環境は一度リセットされました。講演者②有限会社あかばね動物クリニック伊藤貢先生の指導で、衛生状態の高く、繁殖成績もよいTopigs Norsvinが団地全体で導入され繁殖成績は以前と比べ格段に向上しました。それを維持するためグループシステム導入をされたことも重要なポイントです。また、すでにやまびこ会では結果がでつつあった「良い豚」Topigs Norsvinとメンデルデュロック精液の組み合わせによる、極めて良好な増体重や飼料要求率の良さが団地でも評価され全件で導入されました。その後のベンチマーキングでは今までのやまびこ会上位成績者と並ぶ目を見張る結果がでてきております。飼料もやまびこ会指定を利用しており、やまびこ会、豚事協の共通する設計思想であります、「よい餌」が結果に寄与しております。なぜそれがなされたかは様々な要因がありますので詳細は講演にご期待ください。

しかし間違いのない要素として1つあげるならば、「良い管理」として長年続けてきたベンチマーキング

により自社の問題点が個々の農場で、団地で、そしてやまびこ会で共有されてきたことで問題点が明らかになっており、豚熱という不幸な体験をなされましたが、しかしだからこそ豚熱をきっかけに問題解決へと行動できたという点があります。

そして、この先の未来を見通すためにも「今後の」モデルを講演者③ファロスファーム株式会社代表取締役竹延哲治氏に「勝ち残る日本の養豚ビジネスモデル」(仮題)と題して、極めて低い事故率の維持や高効率な飼料要求率に基づく徹底したコスト精査と病気と闘わない飼養管理などを講演いただきます。売上、収益率トップクラスの日本養豚経営を代表する第一人者に利益を創出する手法をご指摘いただきます。

組合員の皆様におかれましては大変お忙しいとは存じますが、ひとりでも多く参加していただきたく参加費は無料とさせていただきました。セミナー終了後は懇親会も予定しておりますので、ぜひともご参加いただきたくお願い致します。

<開催次第>

開催日：2023年2月8日(水) 13時開会

※セミナー終了後に懇親会開催予定。

開催場所：大手町サンケイプラザ

(東京都千代田区大手町1-7-2)

参加費：組合員・賛助会員は無料

非会員は5,000円/人

スケジュール等の詳細は同封のセミナー案内をご確認いただき、参加ご希望の方はファックスもしくは豚事協ホームページ(<http://tonjikyō.or.jp>)のトップ画面下部・事務局からのお知らせに掲載する申し込みフォームからお申し込みをお願いいたします。(いずれもセミナーおよび懇親会参加費含む、事前申し込み制、定員あり)

Topigs×メンデルデュロックの成績から見る ゆめシリーズ標準給与量 ～規格改正に合わせた給与量の再検討～

日本養豚事業協同組合 事務局編集部

本年1月より改正された豚枝肉取引規格に沿った内容での豚事協指定配合飼料「ゆめシリーズ」の標準給与量についてご紹介します。お手元のパンフレットをご参照下さい。出荷生体重量115kg、枝肉重量75kg（歩留まり65%想定）を目安に計算をしてまいりました。しかし、今回の改正により上の規格上限が枝肉83kgとなるため、出荷時の重量が大きくなることは間違いありません。そこで、出荷体重123kg、枝肉重量80kgを想定して規格の見直しを行いました。

●標準給与量バランスを変更しない場合

今までの標準給与のバランス通りに日本飼養標準に基づく平均的な日量増体（DG）、一日飼料摂取量（ADFI）をもとに計算していくと、生育日数が今までより9日間増える188日の肥育期間となり、肉豚用の給与量が増えます。その場合日本の平均を分娩回転率2.2、1母豚当たりの年間肉豚出荷数20頭と仮定し計算すると、パンフレット表示の最低給与量でも農場要求率（農場FC）が3.27となります。しかし、TopigsNorsvinをはじめとした近年の種豚は多産系で、同時に肥育速度が高まり、飼料の要求率（変換効率）も改良されています。またゆめシリーズについては粗たんぱく質設計からアミノ酸設計に重きを置き、アミノ酸バランスにも注意するなどして、効率アップに努めてきました。

これらのことから従来のパンフレットに表現されている数値は意味をなさなくなっており、出産・離乳頭数の増加や生育時のDGの向上による要求率改善がある現在では、この数値の再検討が必要と思わ

れますので、ここで見直して下記のようにいたします。

●現在の成績を加味して給与量を再検討

JASVベンチマーキングなどの資料からTopigs Norsvin×メンデルデュロックの形で経営されている方々を参考に数値を再計算しました。分娩回転率2.4、1母豚当たりの年間肉豚出荷数27頭とし、肉豚肥育時に日本飼養標準で想定するDG850gを上回ると想定した場合、標準生育日数として179日としておりましたが、同じ日数で出荷体重123kg、枝肉重量80kgになると想定すると、要求率は肉豚2.54、農場2.91となります。

●クランブル飼料によるさらなる改善

ゆめシリーズには加熱加工工程を通ったクランブル飼料をラインに加えています。2022年にはクランブル飼料が全体の出荷量の55%になるなど、注目を浴びています。クランブル飼料は7～10%の要求率改善が各種の試験で確認されており、皆様の農場の飼料コスト削減に貢献することは皆様ご存じの通りです。飼料価格高騰が続く現状に対して、可能な限り使用する飼料を少なくして生産性をあげていく要求率改善は非常に重要な観点だと考えます。ぜひともゆめシリーズをご利用いただき要求率改善を実現していただけたらと思います。ご利用お待ちしております。

表1 ゆめシリーズ給与量目安 見直し

DG数値改善 ※分娩回転率2.4、年間肉豚肥育日数179日

	ゆめ ルタ3	ゆめ ルタ5	ゆめ ルタ6	ゆめ ルタ7	ゆめ人 工乳10	ゆめ 子豚20	ゆめ 子豚40	ゆめ 子豚60	ゆめ 子豚74	ゆめ 子豚78	肉豚 給与量	金給 与率	山形 FC	肉豚 FC	農場 FC	山形 肉豚FC	肉豚 FC	農場 FC
パンフレット表示 給与量 (kg)	0.2	1	2	4	20	50	55	180	33	13	312	268	123	2.54	2.91	80	3.9	4.475

連載 若夢会「Boys, be ambitious!」

第一回若夢会へ参加して



有限会社馬場ファーム 馬場 宏太

みなさんこんにちは。有限会社馬場ファームの馬場宏太と申します。弊社は父がイギリスから輸入した種豚を生産・販売するために興した農場ですが、現在では日の出物産株式会社のもとTopigs Norsvinの原種豚場としてGP種豚の生産を行っており、日本養豚事業協同組合を通じて会員の皆様へ種豚を供給しております。日頃からTopigs Norsvin GP種豚をご利用の皆様には、誠にお世話になっております。

コロナも大波と小波を繰り返すなか、久々に開催されたセミナーである第1回若者が夢を語る会（若夢会）ですが、そこに参加された面々からは近い将来への強い危機感を示す声が出る一方、5年、10年以上先を見据えた決心も聞かれました。

情報は各々の持ち場で普段通り仕事をしているだけでは入手できません。いつも使う情報のやり取りはもはやリモートで済ませることもできますが、対

面でしか得られない情報も沢山あります。詳細は控えますが、今回のセミナーで登壇された御三方が赤裸々に話された内容はまさしくそれであると思います。

今回得られた結果はそこだけでなく、コロナに振り回されたこの3年の間にも世代交代を果たした農場がある事、またお会いしたTopigs Norsvin種豚をご利用の経営者様からは、以前導入した種豚についての注文や叱咤激励を頂く事もありました。

私が就農してから早7年が経過しましたが、振り返ってみると自農場の生産現場の中心となる事ができたのは就農後およそ4年です。その4年目を中心として考えると、弊社もやはり他農場と同じく前半の3年間にはPEDや豚熱等の疾病対策に追われました。それが終わったと思いきや、後半の3年間ではコロナの世界的な流行と、ウクライナ戦争に端を発



農場内にて



農場内にて



豚舎内の様子

したコストの急騰による影響を強く受けています。現代の養豚業は設備産業であり、同時にデータを蓄積する情報産業であると考えます。どちらも陳腐化の速度が早く、特に情報に関しては耳に届いた頃には深刻な周回遅れになっていた、となる可能性もあります。

弊社の将来を考えた際、ただ種豚を生産して売っただけでは先行きは見通せないのではとも考えております。内向きには移転や規模の拡大を考えますが、そのみならず対外的にはこのような場へ極力参加して、常に情報の仕入れや棚卸しを行う事と、Topigs Norsvin種豚をご利用頂いた方からの生の声を受け止める必要があると改めて実感させられました。

コロナの影響によりセミナー開催や参加が自粛となった頃もありましたが、そのような状況において



出荷時の豚の様子

も、どうにか利益を確保しようとする経営者やスタッフの方々の中には、今回の若夢会への参加者を含め常に新しい情報を取り入れようとされている方が多い様に感じました。この前向きな姿には頭が下がる思いです。

こういった有益なセミナーには今後とも参加したいと考えております。そのためには足元の農場経営を固めるだけでなく、常にアンテナを張っておく必要があると思います。まだまだ先とはなりますが種豚を扱う者として、品質や防疫レベルの向上を通じて皆様の利益へと還元できるよう、微力ではありますが努力をしていきたいと考えています。



畜舎風景 冬



福島県只見線

連載 若夢会「Boys, be ambitious!」

若夢会に参加して ～夢は認知度・生産性・ 働きやすさどの観点でも 一流企業に～



有限会社石川養豚場 牛島 真衣

私は愛知県の石川養豚場に勤めております。以前はサービス業に従事しておりましたが地元に根差した企業で勤めたいと思い中途で入社、分娩舎を担当し現在5年目です。

母豚1100頭規模、自社で加工工場と販売店を4店舗展開しています。

入社して少し経ち、やっと周りが見えるようになってきた頃に新型コロナウイルスが流行し、他の農場で働く方々との交流の機会がなくなっていました。今回コロナも少し落ち着いていた事もあり、豚に情熱を注ぐ熱い後輩と共に若夢会に参加いたしました。

正直な気持ちとして、「生産者と言っても経営者向けのもので一従業員が参加したら迷惑ではないだろうか」と不安でしたが、他の農場からの従業員の参加も多く、とても活気に溢れていました。

石川さんの講演では景観や地元への還元など地域に根差す弊社にも活かせるものが多くありました。環境に関する条例の厳しい地域での苦労は計り知れないものを感じました。ストレングスファインダー（講演中に石川氏が紹介した書籍）は早速本を買い、それぞれの強みを知りお互いへの理解を深めるきっかけになりました。

齊木さんの講演では2代目としての苦労、家族経営から会社にしていく上での大変さがひしひしと伝わってきました。弊社の半田農場と志布志農場の地形がよく似ていることもあり、防疫の問題など非常に参考になりました。

水野さんの講演はとても聞きやすくマインドの面で物事の根本から考えることで従業員の意識改革、モチベーションのアップにつながることを学びました。

どの方の講演を通して感じたのは養豚への愛と後継者の苦労でした。弊社社長石川も若い頃はこんな苦労をしてここまで会社を大きくしていったのだと思うと、もともと好きだったこの会社がさらに好きになりました（笑）。

山本副理事長はじめ、養豚雑誌でしか拝見したことのない経営者の方と実際に顔を合わせて話すこと

ができた貴重な体験になりました。

懇親会でもお話しさせていただきましたが、どなたも現場の小さい悩みにも耳を傾けてくださり嬉しかったです。従業員として参加されている方とも人材育成の悩みなど生の声をやり取りでき、真剣だからこそ出る悩みを共有でき非常に有意義な時間でした。

また、私自身未経験かつ中途で入社したこともあり、「自分の考えや目指すところが業界の方向性となっているのだろうか」と自信がないままでした。

そういった中、若夢会を通して自社の現状だけでなく業界全体の共通認識として【餌高をどう乗り切るか】【国産豚肉の需要を上げるには】【人手不足】この3つを生産者が情報を共有し乗り越えていくべきだと改めて実感しました。

●今後の夢

今の私の夢は石川養豚場の認知度、生産性、働きやすさ、どれにおいても一流の企業にすることです。大きすぎる夢かもしれませんが、「愛知といえば“トヨタ”と“あいぼーく”と言われるくらいの会社にしていきたいと思っています。またこれからの養豚業界は外国人労働者、女性の力を借りずに発展していくのは困難だと思いますので国籍性別問わず働きたいと思える業界にできるよう取り組んでいける企業にしていきたいです。

そのためには成績をあげるだけでなく、作業効率



農場外観



牛島さん農場にて

や利益upなど様々な面からアプローチする必要があります。これは農場社員に限らず店舗や工場など石川養豚場の従業員全員で力を合わせて取り組んで行けるようにまずは自分の部署からと思い、上司や先輩の応援もありながら試行錯誤しています。

●おわりに

今回の若夢会に参加できたことは私にとって本当に大きなものでした。参加された皆さんの漲るやる気や前向きな気持ちと、笑顔で夢を語る皆さんの顔を見て「この業界の未来は明るい」と確信したからかもしれません。この若夢会で受け取った熱量を持ち帰り石川養豚場を支えていけるように日々頑張ります！

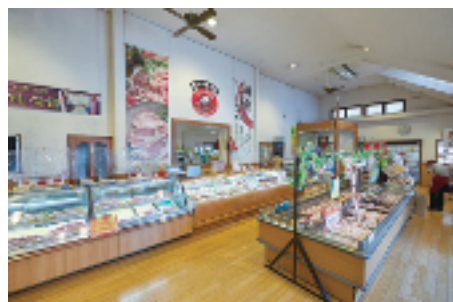
貴重な場に参加させていただき、ありがとうございました。



あいぽーくマーク



直売店外観



直売店舗内



加工品



加工場



骨付き中抜き



リブローズ

<農林水産省からのお知らせ>

～インボイス制度について～

1 インボイス制度（適格請求書等保存方式）の概要

(1) 導入の経緯等

令和5年10月1日から消費税のインボイス制度が開始されます。インボイス制度は、複数税率に対応した仕入税額控除の方式であり、売手が買手に対して正確な適用税率や消費税額等を伝えるために導入されるものです。

(2) 消費税の仕組み

消費税は消費者が負担することを予定する税ですが、その消費税について納税をするのは、消費者に物の販売や、サービスの提供を行った事業者となります。

納税する消費税額は、売上げに係る消費税額から仕入れに係る消費税額を控除することにより算出します。この仕入れに係る消費税額を控除することを「仕入税額控除」と言います。

2 インボイス制度に対応するための検討事項・事前準備等

(1) インボイス発行事業者となるかどうかの判断

インボイス発行事業者となるかは事業者の任意であるため、以下の点から登録を受けるか検討することとなります。

① 売上先がインボイスを必要とするか

課税事業者は仕入税額控除のためにインボイスを必要としますが、例えば、消費者や免税事業者は、仕入税額控除のためにインボイスを必要としません。

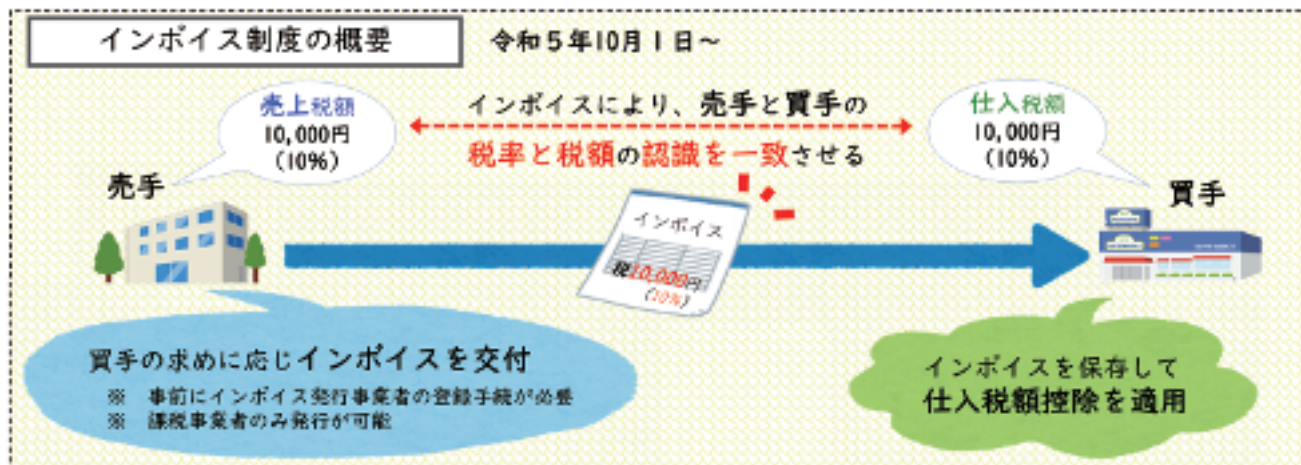
② 申告に係る事務負担の検討

インボイス発行事業者となると、基準期間における課税売上高が1,000万円以下となっても、免税事業者とはならず、課税事業者として申告が必要となります。なお、簡易課税制度を選択することにより、申告に係る事務負担を軽減することが可能です。

(2) 登録申請手続

インボイス発行事業者の登録を受けようとする事業者（登録を受けることができるのは、課税事業者に限ります。）は、納税地を所轄する税務署長に登録申請書を提出する必要があります。登録申請書は、e-Tax又は郵送により提出することができます。

登録申請書の提出を受けた税務署長は、登録拒否要件に該当しない場合には、登録簿に法定事項を登載して登録を行い、登録を受けた事業者に対して、その旨を通知します。



制度が始まる令和5年10月1日から登録を受けるためには、原則として、その半年前の令和5年3月31日までに登録申請書を提出する必要がありますが、期限間際は込み合うことが予想されますので、登録をお考えの方は早めの申請をお願いいたします。

3 売手の留意点

(1) インボイス発行事業者の義務

インボイス発行事業者には、取引の相手方（課税事業者に限ります。）の求めに応じて、インボイスを交付（データでの提供可能です。）する義務及び交付したインボイスの写しを保存する義務が課されます。

(2) 留意点

インボイス発行事業者となった場合に準備や検討が必要になると考えられる事項として、何をインボイスとするか（取引ごとにどのような書類を交付しているか確認し、どのように見直せばインボイスの記載要件を満たせるか）や取引先との認識共有（必要に応じ、取引先への登録番号の通知や、インボイスとした書類、交付方法等の認識共有）といった対応が必要となります。

4 買手の留意点

継続的な取引については、仕入先がインボイス発行事業者の登録を受けるか事前に確認し、何をインボイスとするかについて、仕入先との間で認識を統一しておくことが考えられます。

また、免税事業者や消費者など、インボイス発行事業者以外の者から行った課税仕入れは、原則として仕入税額控除の適用を受けることができません（制度開始後6年間の経過措置があります。）、仕入税額控除の適用を受けるためには、一定の事項が記載された帳簿とインボイスの保存が必要となります。

なお、簡易課税制度を適用する場合、仕入税額控除のためにインボイスの保存は不要です。

(インボイス制度特設サイト・相談窓口)

国税庁ホームページのインボイス制度特設サイトでは、

- ① インボイス制度に関する税務相談チャットボット
- ② 説明会の開催案内
- ③ インボイス制度について解説した動画（国税庁動画チャンネル）
- ④ インボイス制度に関する取扱通達やQ & A

などを随時掲載しています。



特設サイト

【現行の区分記載請求書等保存方式】	【インボイス制度】
※ インボイス制度までの4年間における暫定的な仕入税額控除方式 ～令和5年9月 【イメージ】 請求書 〇〇税理中 税△△ ●年●月分 請求金額 43,600円 ■月1日 割りばし 550円 ■月3日 牛 肉 丼 5,400円 合 計 43,600円 (10%対象 22,000円) (8%対象 21,600円) ※は軽減税率対象 【記載事項】 ① 請求書発行者の氏名又は名称 ② 取引年月日 ③ 取引の内容 ④ 税率ごとに区分して合計した対価の額（税込） ⑤ 軽減税率の対象品目である旨 ⑥ 請求書受領書の氏名又は名称	令和5年10月～ 【イメージ】 請求書 〇〇税理中 税△△ (T1234...) ●年●月分 請求金額 43,600円 ■月1日 割りばし 550円 ■月3日 牛 肉 丼 5,400円 合 計 43,600円 10%対象 22,000円 内税 2,000円 8%対象 21,600円 内税 1,600円 ※は軽減税率対象 【記載事項】 区分記載請求書に以下の事項が追加されたもの ① 登録番号 《課税事業者のみ登録可》 ② 適用税率 ③ 消費税額

令和4年度（第61回）農林水産祭 有限会社吉野ジーピーファーム、セブンフーズ株式会社受賞

令和4年度の農林水産祭の各受賞に当組合員2社が選出されました。吉野穀氏、吉野聡子氏（岐阜県・有吉野ジーピーファーム）が内閣総理大臣賞畜産部門にて「飼養衛生管理徹底と完全無薬化による安全・安心で健康な豚肉の生産」として受賞されました。平成14年より完全無薬飼育を開始し、岐阜県下で3農場を展開されています。自社で交配して生産する3種類の銘柄豚化、それを使用したレトルト食品開発による「ブランド豚生産や6次産業化を実現」、従業員20名のうち6名が女性で繁殖部門や販売促進で活躍されているという「女性活躍」という観点から評価されました。

前田佳良子氏（熊本県・セブンフーズ株）が内閣総理大臣賞女性活躍部門にて「働き方改革で従業員の満足度向上。養豚業を誇れる仕事に！」として受賞されました。完全週休二日制、長期休暇制度、マタニティプログラム制度を活用し従業員満足度が向

上し離職率が低下している「働き方改革」。食品残さなどの未利用資源を家畜飼料とし、家畜の排泄物を堆肥化して自社農場で野菜栽培に利用、その野菜を食品工場に納品するという自社完結型の「持続可能な循環型農業の実践」。豚の耳にICタグをつけて個別管理し、体調にあわせて餌の量を調整する自動給餌システムや餌を食べる時に通過するソーターで自動的に体重を計測して選別する適正体重自動出荷システムを導入するなど「IT技術の積極的な導入」。従業員への女性の積極的登用や人材育成、妊娠した従業員の業務内容を畜舎での作業から事務作業に変更して勤務を継続することができるなど「女性が活躍できる環境づくり」という4つの観点から評価されました。

2社とも素晴らしい経営内容での受賞おめでとうございます。

豚事協の第23期行事

理 事 会

第 1 1 1 回	令和4年6月22日（水）（東京）
第 1 1 2 回	令和4年10月13日（木）（東京）
第 1 1 3 回	令和4年12月8日（木）（東京）
第 1 1 4 回	令和5年3月16日（木）（東京）

豚事協 セミナー

ウ ェ ビ ナ ー	令和4年6月3日（金）オンライン形式
セ ミ ナ ー	令和5年2月8日（水）（東京）

女 性 部

第15回女性部セミナー 未定

※青字は令和5年1月1日以降の行事となります。都合によっては変更・中止となる可能性がありますこと、ご了承下さい。なお、上記は23期の行事となっており、令和5年4月までの予定となります。令和5年5月から第24期となりますので決定したい掲載致します。

12月19日からの新潟県を中心とした大雪によって被害、損害がありました皆様のご心痛を拝察し、心よりからお見舞い申し上げます。
この環境下でも株メンデルジャパン様のご尽力により精液の配送は宅配輸送ができない場合はメンデル社の社員が直接届けるなど、この状況でも配送環境を維持しております。
この場をお借りして厚く御礼申し上げます。精液の安定供給へのご尽力誠にありがとうございます。

No125アンケート



編 集 後 記

＊ ＊ ＊

新年明けましておめでとうございます。本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

2022年はコロナ禍続くなか、2月からのウクライナ戦争とそれに連動した世界的穀物供給不安に相場は大いに揺れ動き、日本も食糧の安全保障が問われました。また経済としてもアメリカ金利政策の影響による歴史的な円安などであらゆるものの価格が高騰するなど日々めぐるニュースがとも現実とは思えないような一年でした。

さて今年 2023年は干支・卯つりウサギです。ウサギというと連想するのは有名なことわざ「二兎を追う者は一兎をも得ず」ですから、目の前のひとつひとつに集中して行動していきたいものです。余談ですが、愛知県岡崎市の日本酒「二兎・愛山 48 純米大吟醸の生酒」、これは極めておいしいおススメです。その酒蔵が掲げる標語が「二兎追う者しか二兎を得ず」とことわざとは矛盾したことをあえてテーマにしています。ようするに挑戦する人しかチャンスはないということでしょうか。これはこれで胸が熱くなる思いです。

養豚業界に目を向けると、1月からの枝肉重量規格改正、まもなく始まるだろう豚熱ワクチンの農場での飼養衛生管理者による接種の許可や母豚免疫不安定時の追加接種など極めて厳しい状況の中にも一筋の光も見えます。この状況下で増頭されたり、畜舎建て替えをされたりチャレンジする方々の雄姿も見えてきます。皆様にとって、業界にとってよりよい一年になればと願ひ、「養豚の未来は明るい」と信じて今晚は日本酒で乾杯いたします（笑）（今晚は福島県会津若松市の写実。福島日本酒好きです。）

2月8日には豚事協として久々に大きな会場で集まっていたく形でセミナーも実施いたしますので、ぜひとも多くご参加いただきますようお願い申し上げます。（加）